

本日は、震災前に仙台市若林区荒浜地区で授産施設を運営していた 社会福祉法人 円（まどか）に訪問してきました。

今回の目的も高知応援隊へ集められた支援金を同施設へ寄付する事です。

同施設はレストランや給食施設を兼ね備えています。特徴は利用者が和菓子を創って販売している事です。しかしながら津波により、建物は全壊し授産設備の一切を失いました。



※写真は被災を受けた同施設。現在は、仙台市太白区にある別の福祉施設の一角を借りて「まゆ」関係の作業をされております。

円（まどか）には 2 回目の訪問になりますが、作業中にも関わらず素晴らしい笑顔で出迎えてくれました。



この施設では女性職員 1 名の尊い命が奪われました。
震災発生時、通所者 44 名と職員 13 名は菓子作りなど作業の最中でした。
一刻を争う状況の中、地元住民の手助けを借りながらとにかく必死に避難先へ
通所者を避難させました。

その後、全員の避難が確認されるとその女性職員さんは「利用者の保護者や
家族に避難先や安否を知らせた貼り紙をしてくる」と沿岸部にある施設へ戻ら
れましたが、そのまま帰らぬ人となりました。



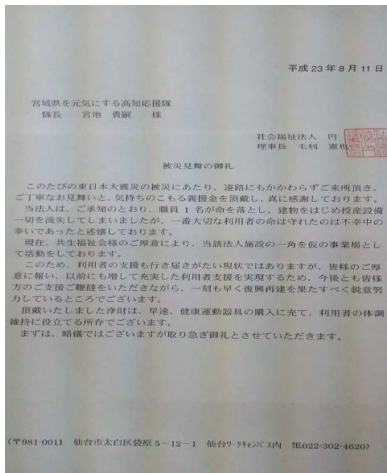
また、その時一緒に行動をされたのが右の写真の若い男性職員さんです。彼は
津波に飲み込まれながらも奇跡的に一命を取り留めました。



ご覧のとおり今では職場に復帰されており、女性職員さんの分まで利用者の皆
さんの笑顔を守るため元気に働かれています。

同僚の職員さん達も「保護者の事を思い危険を顧みず彼女が取った行動は私達
の誇りです」と口をそろえて語られました。

贈呈式において、高知応援隊の活動や応援隊に寄せられた多くの高知県民の想
いをお話しさせて頂きました。
ここでも皆さんから大変喜んで頂きました。



後日、円（まどか）の毛利憲也理事長より丁重な御礼の手紙を頂きました。

寄付金は利用者の体調維持のため、健康運動器具の購入に充てられるそうです。

本当に一日でも早く再建を果たされ、利用者の皆さんが以前のように和菓子づくりが出来るように願っております。